

社会科

山 岸 郁 生
松 下 浩 一
笹 山 明 夫

1 社会科の本質について

私たちは社会科の本質を、次のように考えている。

社会の一員としての自覚を持つこと

社会科とは、身の回りにある様々な事象を通して、人の営みの意味や働きを自分のくらしとのかかわりでとらえていく教科だと考える。

人の営みの意味や働きとは、さまざまな思いや願い、その営みの現れに至るまでの経緯や因果関係、試行錯誤の上に生み出された技術やしくみのすばらしさなどのことをいう。それらを自分のくらしとのかかわりの中で、自分なりにとらえていくことを大切にしたい。そうすることで、自分のくらしは様々な人の営みに支えられて成り立っていることが実感できるであろう。さらには、それらの人の営みに自分自身が何らかの形でかかわって生きていることを自覚することになる。このような自覚が、すなわち、小学校段階での「社会の一員としての自覚を持つこと」であり、いずれ将来にわたっても、社会生活を営むための素地になっていくものとする。

2 本質にもとづく基礎・基本について

それでは、社会科で大切にしたい基礎・基本とは何か。私たちは次のように考えている。

社会的なものの見方・考え方を身につけていくこと

社会的なものの見方・考え方とは、身の回りにある事象を様々な人の営みとのかかわりから見たり考えたりすることである。例えば、ある事象を人の工夫や努力、自然や国土の様子、地域や国とのかかわりなどといった点から見たり考えたりすることである。このような見方・考え方をすることで、事象が自分のくらしの中でどのような位置づけにあり、意味を持つのかをとらえることができる。また、どのようなしくみを持ち、自分のくらしにどのような影響を与えているのか、といったこともとらえていくことができる。そして、このようなどろえができていく中で、どのような事象に出会っても公正な判断ができたり、社会的な義務や責任を感じて行動しようとしたり、といった正しい社会生活を営む素地が培われるものとする。

よって、社会的なものの見方・考え方を身につけていくことが、社会の一員としての自覚を持つことにつながると考える。

3 社会科における「学び」について

社会科における「学び」を全体論で示した「4つの培いたい力」と関連づけると次のように考えられる。

子どもたちがある事象と出会ったときに、既存の社会的なものの見方・考え方を生かして、その事象にかかわる人の営みの意味や働きをとらえようとする。そのときに、新たな疑問や学習問題が生まれる。そこから、子ども一人一人の追求が始まることになる。このように身の回りの事象から問題を設定しようとする力、そして、問題解決に向けてさらにその事象とかわろうとしたり、地域の人や周りの友達などかわろうとしたりする力を「発働する力」ととらえている。社会科の場合、この「発働する力」がもととなって、各自の学びが展開されることが多い。つまり、「4つの培いたい力」の中では、この「発働する力」が重要な位置を占める教科であると言ってよい。

その「発働する力」をもとに、問題に対する自分なりの予想や仮説を立て、どのような手順を踏み、どのような方法で調べ活動を行っていくか、自分なりに計画をもって問題解決に取り組むことになる。このような力を「見通す力」ととらえている。

その見通しのもと、調べ活動の中で収集した情報を自分なりに比較・分類したり、関連づけたり、統合したりして、課題に対する自分の考えを構築していく。そして、全体の学習の場でお互いの考えを共有化したり、周りの考えを取り入れて新たな自分の考えを再構築していく。このような資料活用能力や思考力、判断力などを「ネットワークする力」ととらえている。

また、学習過程の中で、自分の調べ方や見方・考え方を見つめ直し、修正・改善していくことが大切である。このように自己評価する力を「見つめる力」ととらえている。この「見つめる力」を身につけることで、さらに学習意欲が高まったり、自分なりの社会的なものの見方・考え方の深まりを自覚したりすることにつながっていく。

これら「4つの培いたい力」を身につけていくことによって「個」の確立した姿へと迫っていくことになると考える。

4 単元を構想するにあたって

社会科における「個」の確立した姿とは「人の営みの意味や働きを自分のくらしとのかかわりでもとらえ、自分なりの見方・考え方を身につけていく姿」ととらえている。この「個」の確

立した姿に迫るために、実際の単元に下ろして実践するにあたっては、以下に述べる視点にもとづいて、単元を構成していく。

(1) 事象への自発的な

はたらきかけを促す

子ども一人一人が、事象に意欲的にはたらきかけることができるように、まず、単元導入時において事象との出会いの場を工夫する。子どもに驚きや感動を与える素材、意外性のある素材を用意するなどである。例えば、グラフや写真、年表などの資料の提示、もしくは実物の提示などにより、子どもの問題意識や目的意識を高め、事象へのはたらきかけを促すことができるであろう。

次に、学習過程において複線的な学習の流れを意図的に組むことである。子ども一人一人の多様な思いや願いに応えるためである。そうすることで、各自が興味・関心のもつ事象や課題や学習方法などを選択でき、より主体的な学習につながるであろう。

さらに、できるだけ体験的な活動の場を取り入れることが大切だと考える。問題意識を高めたり、自分の考えを明確にできるようにしたりするためである。

これらの工夫により、子どもの追究意欲が持続するようにしていきたい。

(2) 学習の見通しが持てるように

自分の思いや考えの表現を促す

ある事象との出会いや新しい考え方との出会いなどから子どもの素朴な思いや考えが生まれるであろう。そして、それらが全体の場に出されることにより、単元全体を貫く学習問題が作られたり、追求していく方向が見い出されることになるであろう。そこから、子どもは意欲的に人の営みの意味や働きに迫ろうと問題解決的な学習の過程へと向かうのである。

そのためにも、教師は、子どもが思いを表現しやすい雰囲気をつくることが大切である。また、子どもの発言だけでなく、つぶやきやノート上の言葉、さらに調べ活動の様子などから子どもの思いや考えを取り上げていくことも大切な教師の働きかけになると考える。既習の事項や今までの体験と結びつけたその子なりの見方・考え方を十分に認め、全体に広げていく支援を行っていきたい。

さらに、問題解決に向けて、追求内容や方法などを計画立案するように促していく。そのことで、見通しを持った学習へとつなげていきたい。

(3) 社会的なものの見方・考え方を

相互交流し 自分の考えの再構築を促す

社会的なものの見方・考え方を広げたり深めたりしていくために、他の友だちの見方・考え方を相互交流する場の設定が必要になる。それが従来のお互いの考えを発表し合う場であった

り、ディベートや討論の場であったり、ワークショップやポスターセッションの場であったりなど、形態は様々である。それらの交流の場で、事象にかかわる人の多様な思いや願い、工夫や努力などといった視点に着目した意見が出されるであろう。また、いくつかの見方・考え方を関連づけたり、くらしとのかかわりで考えたり、といった意見も出されるであろう。それらの中から、自分にはない見方・考え方のよさを取り入れ、自分の考えを見直すことができるようにしていきたい。その際には、板書などを活用しながら、各自の考えの位置づけを明確にし、それぞれの差異を際立たせるようにする。そして、各自の考えを見直していけるような問いを発するなどして各自の考えの再構築を促していきたい。

(4) 自己評価活動で自分の調べ方や

見方・考え方のよさの自覚を促す

事象に対して自分の抱いた思いや考えが、追求過程の中でどのように変容していったのかを自覚することは、自分と社会とのかかわりを自覚することにつながる。また、問題解決的な学習の仕方を身につけることができたという自覚にもつながると考える。

そのために、事象に対する予想や仮説を明記させたのち、自分の学習のめあてや計画などを書くように促す。また、追究過程の途中において、自分の考えや活動、あるいは追求方法のふりかえりをノートやカード等書き留める。単元の終わりには、自分の活動全体をふり返ることにしたい。

また、各自の調べたことを発表・交流する場でも、それぞれの追求内容ならびに追求方法に対する自己評価や相互評価する場を設けて、自分のよさの自覚を促していきたい。

このような場を設けることにより、自分の見方や考え方ならびに学び方のよさを自覚できるようにしていきたい。

(1) 単元名 ピースタウンはどんなまち！？

- (2) 目標 ・学校の周りを探検し、地形、土地利用の様子、主な公共の施設の場所や様子などを意欲的に調べ、地図にまとめることを通して、自分の学校の周りの特色について考え、地域のよさに気づくことができる。

(3) 指導にあたって

本単元における基礎・基本について

わたしたちは、地域の中で生活している。地域の中には、わたしたちが住んでいる家、生活に必要なものを売る商店、安全な暮らしを守ってくれる病院や警察、消防署などがあつたり、図書館のような、心を豊かにしてくれる文化的な施設があつたりする。わたしたちは地域と深く関わり合いながら生活しているといえるのである。

市内全域から通学する本校の子どもにとって地域を学習することは難しい。そこで本単元では、子どもが1日の大半を過ごす附属小学校の周辺（ピースタウン）を共通の教材として取り上げることにした。ピースタウンには住宅や商店が集まり、学校や病院といったたくさんの公共の施設もある。また、南の方には野田山が広がり自然も豊かである。しかし、子どもはピースタウンのこうした地形や土地利用の様子、公共の施設の場所や様子などについてはよく知らないのが実情である。そこで見学による調べ活動を取り入れたり、調べたことを地図にまとめたりすることによって、ピースタウンの特色を地域のよさと結びつけながら考えることができるようにしたいと考えている。そして、本単元での気づきやピースタウンの特色を考える力が、自分の家を中心とする地域、さらには金沢市全体に対する見方・考え方にもつながると考える。

よって本単元の基礎・基本は、ピースタウンの特色を、地形や土地利用の様子、主な公共の施設

単元計画 総時数 12時間

主な活動と内容	「個」の確立した姿に迫るために	自己評価のポイント
1. ピースタウンに対する自分なりのイメージを持つ <これはピースタウンにあるものの写真です どこだろう？> ・平和町パーキング ・お墓 ・アルコ ・平和町薬局 ピースタウンはどんなまちかな？ ・にぎやかなまち ・店が多いまち ・平和なまち <どんなまちかをたしかめるために たんけんしに行こう！>	①②	学校の周りの様子に関心を持ち ピースタウンに対するイメージを自分なりに表現できている (自己達成評価)
2. みんなで平和町大通りを探検し 調べたことを発表し合う ・写真の場所を見つけたよ ・人がたくさんいたよ ・車も多いね ・お店が多いまちだね ・にぎやかなまちだね <ピースタウン全体がにぎやかなまちだといえるかな？> ・静かなところもある ・自然も多い ・もっと調べてみないとわからないよ <まち全体の様子をグループにわかれて調べてみよう>	①②③	平和町大通りで見つけたものを確かめ 地図上に位置を表し ピースタウンに対する自分なりのイメージを表現できている (自己達成評価)
3. 4つのコースから1つを選んで探検し 土地の様子を探検地図に表す ・アパートなどの住宅が多い ・おはかがならんでいるよ ・近くの人にも聞いてみたよ ・うまく地図にかけたよ	①②	探検して見つけたものを自分なりに探検地図に表現できている (自己達成評価)
4. 調べたことを大きな地図に表し それぞれのまちの特色を発表し合う 長坂コース ・古い家がたくさんあってしずか ・むかしという感じのするまち 平和町1コース ・アパートが多く 公園もある ・全体的にしずかなまちだ 平和町2コース ・学校 家 アパートが多い ・ひっそりした感じのまち 野田町コース ・野田山があり おはかがいっぱい ・しーんとしているまちだなあ ・調べたことをいい言葉でまとめているなあ	②③④	友達の発表を聞いて 見方・考え方のよさを認め合うことができている (相互評価)
5. 地図記号や方角をもとに学校の周りの特色を自分なりにまとめる ・北はアパートなどの住宅が多い ・南には田畑があり 野田山が広がっている ・大通りは店が多く 病院 公園 図書館などがあってべりなまちだな ・4つのコースを合わせると 最初のイメージと比べてしずかなまちだった ・自分の家の周りはどうかについても調べてみよう ・地図ってべりだなあ	②③④	学習をふり返り これまで気づいたことや調べ方についてそのよさにふれたり 反省点を今後の学習に生かそうとする意欲が表れている (自己客観的評価)

設の場所と様子などと結びつけて考え、そのよさに気づくことであると考えている。また、本単元の学習を通して、地域の様子を地図に表し、まとめていくための資料活用能力や、地域の特色やそのよさを考える思考力を培うことができると考えている。

「個」の確立した姿に迫るために

① ピースタウンへの自発的なはたらきかけを促す

まず平和町大通りにある商店や施設の特徴的な写真を提示し、どこにあるものかを考えるようにすることで、ピースタウンに対する関心を持たせたい。そして他に知っているものを紹介し合う中で、「その場所を確かめてみたい」「ピースタウンをたんけんして、どんなところか調べてみたい」という意欲を持たせるようにしたい。探検にあたっては、行きたいコースを選択するようにしたり、コース別の地図を与えることにより、自発的にピースタウンに働きかけることができるようにしたい。

② 学習の見通しが持てるように ピースタウンに対する自分の思いや考えの表現を促す

探検しに行くことによって、おもしろい看板を見つけたり、たくさんのお店があることに気づいたりする。友達の発表を聞いて自分の見方・考え方とずれが生じることも出てくる。そうしたときに出る一人一人のつぶやきや素直な思いをできるだけ取り上げて全体に広めたり、新たな疑問として提示したりしていく。そうすることによって、自分の学習のめあてや調べてみたいこと、探検して確かめてみたいことなどがはっきりし、自分なりの学習の見通しが持てるようになると思考えている。

③ ピースタウンに対する見方・考え方を相互交流し 自分の考えの再構築を促す

コース別に見学して調べたことを発表し、交流する場を設けることにより、自分が知らなかったことや、今まで通っていたのに気づかなかったことなどがわかってきたりするだろう。このような場を設けることでピースタウンの特色に対する考えの共有化を図りたい。また、交流によって、友だちの見方・考え方のよさを取り入れたりしながら、もう一度ピースタウンの特色について書き表すことで、自分の考えを再構築するように促していきたい。

④ 自己評価活動で自分の調べ方や見方・考え方のよさの自覚を促す

見学や調べ活動、発表などの学習過程のポイントごとにカードを用いて自己評価をする活動を取り入れていく。学習のめあてを明記し、それに対して、どこまで達成できたか、楽しんで活動できたか、などをふり返ったり、ピースタウンに対する自分なりの気づきを書いたりすることによって、自分の探検の仕方やピースタウンに対する見方・考え方のよさに気づかせていきたい。また、単元の終わりにはこれまでの自己評価活動全体をふり返ることによって、自分の家の周りについても関心を持ったり、次の単元である金沢市全体の様子の学習に対する意欲へとつなげたりするようにしていきたい。

(4) 本単元における授業の実際と考察

子どもが自分の学校の周りの特色について考え、地域のよさに気づくことができるようにするために、本単元を構成するにあたっては、ピースタウンに対する関心を持つ場、たんけんして調べ活動をする場、考えを交流する場、自分なりにまとめる場を設けることにした。そして、それぞれの場において、学習に対する意欲、調べ方、気づきなどを振り返るための自己評価のポイントを設定した。考察にあたっては、この自己評価のポイントごとに、子どもが自分の活動やよさをどのようにふり返ったり、自覚していったりしたのかを中心に書き進めていきたい。また、子どもの自己評価の生かし方について、その妥当性や問題点などについても考察を加えていきたい。

単元の実際

1 ピースタウンに対する自分なりのイメージを持つ

〈これはどこの写真だろう〉

- ・何だろう？
- ・うどん屋さん
- ・かえる
- ・くすり屋さん

① ピースタウンの写真を見て

学校の周りの様子に関心を持ち ピースタウンに対するイメージを自分なりに表現できている（自己達成評価）

ピースタウンにある店の象徴的な写真を提示することによって、ピースタウンに対する関心を持たせたいと考えた。子どもは興味深そうに写真を見つめ、店の名前や場所について意見を述べていた。関心が持てたところで、ピースタウンに対する初めてのイメージを言葉で表してみるこ



ピースタウンの写真

<ピースタウンは

どんなまちだろう>

- ・どんなことをかけばいいの？
- ・「〇〇なまち」とかこう！

<どんなまちかをたしかめるために
たんけんしに行こう！>

- ・やったあ、たんけんだ！
- ・楽しそうだな
- ・なにをすればいいの？

2 平和町大通りを探検して 調べたことを発表し合う

<大通りはどんなところかな？>

- ・楽しいまち
- ・お店がいっぱいあるまち
- ・にぎやかなまち



大通りでの探検の様子

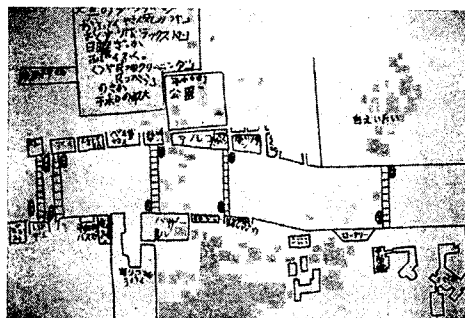


図1 探検で使った地図

とにした。

- A児：学校に近いまち
B児：お店がいっぱいあるまち
C児：にぎやかなまち

A児は、写真には興味を持てたが、イメージをつかむところまでにはいかなかった。たずねてみると「ピースタウン」という言葉の意味が理解しにくかったと答えた。この他に、イメージがしっかりと持てず、表現できなかった児童もいた。B児は、いろいろな店の写真に興味を持ち、そのままのイメージを表現していた。理由も「お店がいっぱいありそうだから」と答えた。C児は、写真の店について知っていることや他にもおもしろい看板があることなどを積極的に述べていた。そして、にぎやかなまちの様子を思い浮かべながら、「お店に人がたくさん集まってくるから、にぎやかなまち」と説明していた。

行ったことがないからよくわからない、ピースタウンが本当に自分のイメージしたようなまちなのかどうかを確かめてみたいという意見が多く出されたので、探検をして調べようということになった。調べ活動に対する意欲を持たせる上で、ピースタウンの写真が効果的であったと考えている。

② 平和町大通りの探検

平和町大通りで見つけたものを確かめ 地図上に位置を表し ピースタウンに対する自分なりのイメージを表現できている (自己達成評価)

ア 探検活動の様子

初めての調べ活動としての探検なので、共通の活動場所として平和町大通りを選び、探検の自分なりのめあてをはっきりさせるようにした。一人一人に配る地図については、探検するコースがよくわかるように大通りを拡大し、通らない道路についてはできるだけ省略して必要最小限にとどめたものを準備した(図1)。また、探検をより楽しくするための支援として、導入で用いた写真を印刷し、それらがどこにあるかを見つけてくるよう助言した。

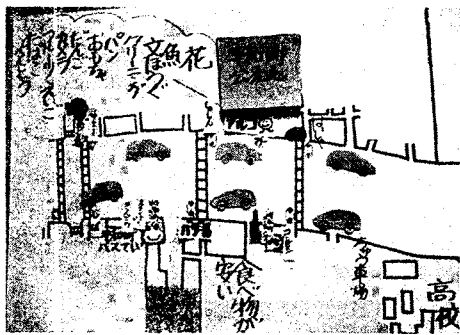
実際の探検活動では、どの子も楽しく活動することができたと感想を書いていた。また、「お店で働いている人にどんなことをしているのかたずねることができた」「写真のお店を全部見つけることができた」「他のお店の名前もくわしく調べられた」など、自分の調べ方に満足感を持つことができた子もいた。こうしたよさを教師は、調べ方のよさとして今後も生かすよう全体に広めた。自分が調べることに対して見通しが持てたことによって、満足できる探検につながったようだ。

イ 探検したことの交流

探検して見つけたものを出し合いながら、ピースタウンがどんなまちだったかを考える場を設けた。その中で、どんなものを見つけたか、どのように調べたかについて交流することができた。その後、「どんなまちだといえいいか」と発問してみた。

<大通りで見つけたものを
出し合おう>

- ・うどんやさんがここにあったよ
- ・アルコにお店がたくさんあった



調べたことをまとめた地図

<たんけんしてきたまちは
どんなまちだといえいいかな>

- ・にぎやかなまち
- ・平和なまち
- ・なんでもあるまち

<ピースタウン全体も大通りのよう
なまちだろうか>

- ・わからない
- ・調べてみた方がいい

3 ピースタウン全体を調べ 探検
地図に表す

<ピースタウン全体を
グループに分かれて調べよう>

- Aコース：平和町2丁目
- Bコース：平和町3丁目
- Cコース：長坂
- Dコース：野田町



探検に出かける子ども

D児：自衛隊が広いから「広いまち」

E児：お店がいっぱいあるまち

F児：お店が多かったけれど 意外と家が少なかった

D児は、探検前と変わらず「広いまち」だと答えている。自衛隊の印象がかなり強いようであった。E児も探検前と同じく「お店がいっぱいあるまち」だと答えているが、探検や意見交流を通して自分の予想が合っていたことに十分満足している様子だった。F児は、探検前から店が多いだろうと思っていたので、その点では予想通りだったが、家が意外に少ないということが新たな気づきとなったようである。

その他に「平和なまち」「はてながあるまち」など様々な表現が出た。そこで「どの言葉がぴったりくるかな？」と問いかけることで考えの再構築を促してみた。すると、「平和なまち」「にぎやかなまち」という意見が多かった。「平和」という言葉は、やや抽象的な言葉であり、多様な意味を含んでいると思われたが、言葉の持つイメージをうまく具体化することができなかった。適切な発問と時間の保障が必要であったと反省している。

③ ピースタウン全体の探検

探検に向けて調べ方を工夫したり 探検して見つけたものを探検地図に表現できている (自己達成評価)

平和町の大通りだけでなく、ピースタウン全体についても探検をして調べてみようということになった。今度は、4つのコースから自分で調べてみたいところを選んで探検することにした。これは、より積極的に調べようという追究意欲を持たせ、満足できる探検になるようにしたいと考えたからである。そこで、よりよい探検に向けて、前回の探検の際の自分の調べ方がどうだったかということについて自己評価してみた。

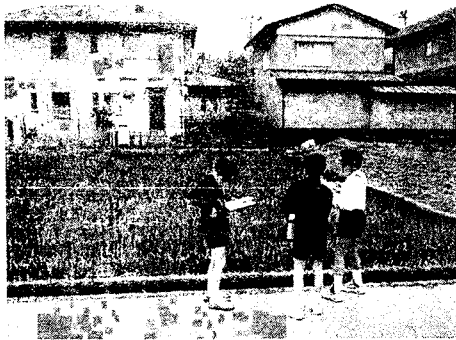
G児：けんかをしてしまったためだった

H児：しっかり調べられた

I児：お店を中心に調べてしまった

G児は、班行動がやや苦手で、他の児童と調べたいことが異なっていたために、うまく意見が合わなかったようである。H児は、写真の店を全て見つけるという目的を達成できたことに満足している。I児は、店だけでなく、その他の建物や施設についても調べればよかったと自己評価し、十分満足するところまでは至らなかったようである。

そこで前回の調べ方のよさである「店の名前などをくわしく調べたこと」「地域の方にくわしくたずねてみたこと」を確認し、今回も生かすこととした。また、前回よりも広範囲を調べるために工夫するとよいことを話し合った。すると、地図にかき込む時間を節約するために「色分けすればよい」という意見が出た。これは、土地の使い方を分類して、まとめて色で表していこうというものであり、みんなが賛成した。初めてのコースを探検する不安を



ねぎ畑発見!

4 調べたことを地図に表し 特色を
を発売し合う

<たんけんしてきたことを
大きな地図にまとめよう>

- ・家、学校、などはピンク色
- ・店は黄色
- ・田畑、山などは緑色



地図を作製する様子

<たんけんしてきたコースはそれぞれ
どんなまちだったかな?>

- ・Aコース：お店が多くにぎやかだが、アパートの多い所はしずか
- ・Bコース：大通りは店が多くにぎやかだが おくは家が多くしずか
- ・Cコース：住宅が多く田んぼもあり、しーんとしている
- ・Dコース：おはかや田畑や山があつてのんびりとしたところ

5 方角や地図記号をもとにピース
タウンの特色をまとめる

<方角をもとにして
地図を見てみよう>

- ・地図の上の方が北だ
- ・下の方が南
- ・北を向いて右手の方が東
- ・その反対が西だ

やわらげるため、あらかじめ道順を地図上で決めておく
とよいという考えも出された。

それでも、実際の探検となると、最初はどこを歩いで
いるのかわからなくなってしまふ児童が何人かいた。その際
には、コースごとに引率した教師の助言が役に立った。

J児：どこをたんけんするのかわからなくなってこま
り 少しおそくなりました

K児：ぜんぶいろぬりできました よかったです

L児：地図が家やたてもので全部うまってしまつてど
てもびっくりしました 川がなくてふしぎです

探検後の感想では、L児は、自分が記録した地図がほと
んど家やアパートで埋め尽くされていったことに改めて驚
きを感じたようだ。そして自分の地域の様子との違いに気
づくようになった。記録用に準備した地図がこうした気づ
きにつなげるために役に立ったといえる。

④ 地図の作成とまちの特色についての意見交流

友達の発表を聞いて 見方・考え方のよさを認め合うこ
とができている (相互評価)

探検で調べてきたことを大きな地図にまとめた上で、地
図を見ながらどんなまちかを再度考え合うことにした。
コースごとに一人ずつ発表し、質問や感想を通して交流し
ていった。

発表に対する感想は、ほとんどが声の大きさや、わかり
やすい話し方というような発表の仕方のことが中心であつ
た。3年生の段階では、内容のよさを認め合うためには
もっと学習の積み重ねが必要であることを感じた。そこ
で、教師が一人一人の発言のよさを認め、みんなに広め
たりしていくことを心がけた。

M児：「のんびり」という言葉がよかった 自分もそ
へ行ってみたい

N児：わからないことを地域の人に聞いてみたことがい
いと思った

O児：人がたくさん住んでいるのにしずかな感じがする
のは昼間はみんな出かけているからだとわかつた

その中で、M児は、言葉の表現のよさを、N児は、調べ
方のよさを認める発言をしていた。またO児は、人がたく
さん住んでいるのにしずかな感じがすることを不思議に感
じたものの、友だちの考え方に理解を示していた。

⑤ ピースタウンの特色についてのまとめ

学習をふり返り これまで気づいたことや調べ方につい
てそのよさにふれたり 反省点を今後の学習に生かそう
とする意欲が表れている (自己客観的評価)

地図の向きや方角の表し方、地図記号などを学習した
後、単元の終わりにこれまでの学習をまとめるカードを書
いた(図2)。学習のポイントごとにそのときの自分の考
えや達成度などを確かめてみるための活動である。これま
での予想とくらべたり、ピースタウンのいいところについ

